

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.1.15/1.25 No. 64 連絡先 042-555-1911



…第10回横田基地の撤去を求める座り込み行動…

笑いと癒しのひよっとこのお面で、今年も元気にスタート！



1月17日(日)、横田基地の撤去を求める第10回の座り込み行動が、福生フレンドシップパークで行われました。新年でもあり、天狗が太鼓をたたいて開始を知らせ、参加者からは今年の抱負など様々な発言がありました。ギターやアコーディオン演奏で歌

も歌い、差し入れのあんで作ったお汁粉、豚汁もあって、心も暖かく座り込みました。名護市長選挙へのカンパも3万円を超えました。最後はひよっとこのお面をかぶり記念撮影です。

横田基地の危険な変貌 …世界戦略の新たな軍事態勢…

キーン・エッジ(日米共同統合指揮所演習)に米太平洋軍司令部が本格参加

日米共同統合指揮所演習「キーン・エッジ 2010」が1月13日(水)から1月29日まで自衛隊の市ヶ谷駐屯地(新宿区)と米軍横田基地を中心に実施されています。米軍と自衛隊の「統合運用能力の維持・向上を図る」として1985年度から始まり、今回18回目となります。

今回初めてアジア・太平洋地域の米軍を統括する米太平洋軍司令部が本格的な参加です。

「キーン・エッジ 2010」の統裁官は、自衛隊は、統合幕僚長、陸将・折木良一。米軍は、在日米軍司令官、空軍中将・エドワード・A・ライス Jr. です。

防衛省・自衛隊の演習参加部隊は、ア 内部部局、イ 統合幕僚監部、自衛隊指揮通信システム隊、統合幕僚学校、ウ 陸上幕僚監部、各方面隊、中央即応集団、通信団、陸自中央輸送業務隊、陸自各学校、陸自研究本部、陸自補給統制本部、エ 海上幕僚監部、自衛艦隊、各地方隊、システム通信隊群、海自補給本部、オ 航空幕僚監部、航空総隊、航空支援集団、航空教育集団、航空開発実験集団、航空システム通信隊、空自幹部学校、空自補給本部、カ 自衛隊情報保全隊、情報本部です。米軍の演習参加部隊は、太平洋軍司令部、在日米軍司令部、在日米陸軍、在日米海軍、在日米空軍、在日米海兵隊棟です。

参加人数は不明ですが、大規模な、これまでにない日米共同統合指揮所演習です。

米軍再編により横田に建設中の航空自衛隊航空総隊司令部棟は今年9月末には完成します。「キーン・エッジ 2010」は、新たな軍事態勢のもとで横田基地の「日米共同統合運用調整センター」や防空及びミサイル防衛(共同航空作戦調整センター)の機能強化に対応する演習です。

変貌する横田基地の姿を広く知らせ、軍事基地撤去の運動を進めていきましょう。



写真は1月17日の座り込みの最後を飾った「笑いと癒しのひよっとこのお面で勢揃い」の様子です。

世界で平和の共同体が広がっている …中南米では…

中南米地域は、19世紀初めから「米国の裏庭」とされ、米国の度重なる軍事介入や経済支配に苦しめられてきました。第2世界大戦後は軍事ブロックである米州相互援助条約（リオ条約）と、南北大陸35カ国が加盟する米州機構（OAS）によって、アメリカ主導の「反共ブロック」がつけられていきました。1970年代以降は、新自由主義路線が導入され、極端な規制緩和や民営化、福祉・教育予算の削減などが進められ、貧困と格差が拡大し、経済成長は停滞しました。80年代は「失われた10年」、90年代は「絶望の10年」と呼ばれています。

矛盾が限界に達するなか、1998年にベネズエラで革新勢力が大統領選で勝利したことを契機に、新自由主義を断ち切り、対米自立の外交を進める革新政権が次々と誕生しました。去年3月には長らく親米政権が続いた中米エルサルバドルで革新候補が大統領に当選しました。2008年5月には南米12カ国でつくる平和共同体「南米諸国連合」(UNASUR)が誕生しました。設立条約は、主権平等に基づく多極世界、核兵器のない世界を目標とし、統合の原則に、主権尊重、領土保全、民族自決権などを挙げました。さらに2010年には、中南米カリブ海諸国の全33カ国でつくる「中南米・カリブ海諸国機構」が発足する予定です。同機構発足に向けた首脳会議の宣言は、紛争の平和解決など国連憲章の諸原則の尊重を強調しています。

なかなか明らかにならない2010年度の横田基地関係の米軍再編費

2010年度の軍事費（防衛関係予算）は、4兆7903億円です。米軍再編と在日米軍基地のあり方を見直すとした鳩山政権が発足しながら、軍事費にメスが入りません。米軍再編経費は、1320億円で前年度より481億円も増加しました。海兵隊のグアム移転費が前年度の346億円から472億円に、厚木基地から岩国基地への空母艦載機移駐経費も前年度の56億円から270億円に増加しました。

ところで、過去3年間で488億円の予算が組まれた横田基地への航空総隊移転費用は、まだ明らかにされていません。2010年度の【抑止力の維持に資する措置】【333億円】の詳細が分かっていないからです。この金額のかなりの部分が横田関連に使われると推測されます。（右写真：立ち上がってきた施設）



横田への米空軍基地統合の「関東計画」はパッケージ第1弾だった

「関東計画」とは、1970年代、都市化した関東平野に所在する米空軍基地を削減し、その大部分を横田基地に統合した計画です。1960年代後半の沖縄返還運動やベトナム戦争反対運動などの高まりの中で、在日米軍基地も何とかしなければと日米両国政府が決めた米軍基地の再編整理計画でした。そして、返還される基地に代る代替施設の建設は日本側の経費負担で行うという、いわばパッケージの計画の第1弾でした。

日本側の負担は当初、住宅275戸、司令部事務所、病院、倉庫等の建設で約220億円の予定でした。しかし工期ものび建物も増え、事務費等を含め総額約450億円となりました。

返還対象となった6つの基地			
府中空軍施設の大部分	土地	約 56 万㎡	建物 約 14 万㎡
キャンプ朝霞(南地区)の大部分	土地	約 123 万㎡	建物 約 4 万7 千㎡
立川飛行場(大和航空施設を含む)	土地	約 602 万㎡	建物 約 54 万㎡
関東村住宅地区	土地	約 127 万㎡	建物 約 16 万㎡
ジョンソン飛行場住宅地区の大部分	土地	約 164 万㎡	建物 約 17 万㎡
水戸空対地射爆撃場	土地	約 1148 万㎡	建物 約 1 千㎡
計	土地	約 2219 万㎡	建物 約 105 万㎡